

[講演要旨] 歴史地震について(遺言にかえて)

宇佐美 龍夫

1 一般的なこと

歴史地震の基礎は史料にある 史料は毎日どこかで 消えつつある 収集には肩書のある現役の方々の方がよい 大地震だけでなく 中小の地震にも注目を 例 「南航日記残簡」(鹿児島)に 閏7月9日 地震 同13日大地震

また 収集相手から 様々な情報を引き出すためには 話題(雑学)の蓄積と話術の上達に心がける さらに 事前に十分な 必要資料の準備を お忘れなく

2 一市民として

明日おきてもおかしくない

人的被害のある 次の地震は 何時 何処に おきるか

色々な量 とくに発生確立の 精度について

震度とマグニチュード

3 気になる歴史地震

甲 慶応1・1・29 加古川上流の地震 これは 30年かかって やっと かなりのことが わかってきた 有感域は 岩国・萩・馬籠・松山・土佐市宇佐 におよぶ

乙 享和1・4・15 久留里の地震、安政3・10・7 所沢・立川の地震、明治3・4・13の小田原の地震 この三つの地震は被害の様子が いまだ よくわからない

丙 寛政5・1・7の 東日本の地震 これは ことし3・11の大地震によくにている 震源域の大きさが しかし Mは8.5~8.6くらいか 被害もちいさい 私は30年来 関東地方に ほぼ同時に別の地震がおきたのでは とおもっていた しかしその震央はわからない 今回の地震でやっと疑問がとけた

4 提案

甲 「歴史地震」に史料欄を 設けて 新しい史料を集める たとえ 一行の小地震の記録でもよいこれが溜れば 地震学者の共有の財産となるであろう

乙 「総覧」の改訂について

5 その他(時間がゆるせば)

甲 地球の自由振動の復素根について

乙 地震の巣を決める物理的インデックスについて

ご清聴を感謝します
有難うございました